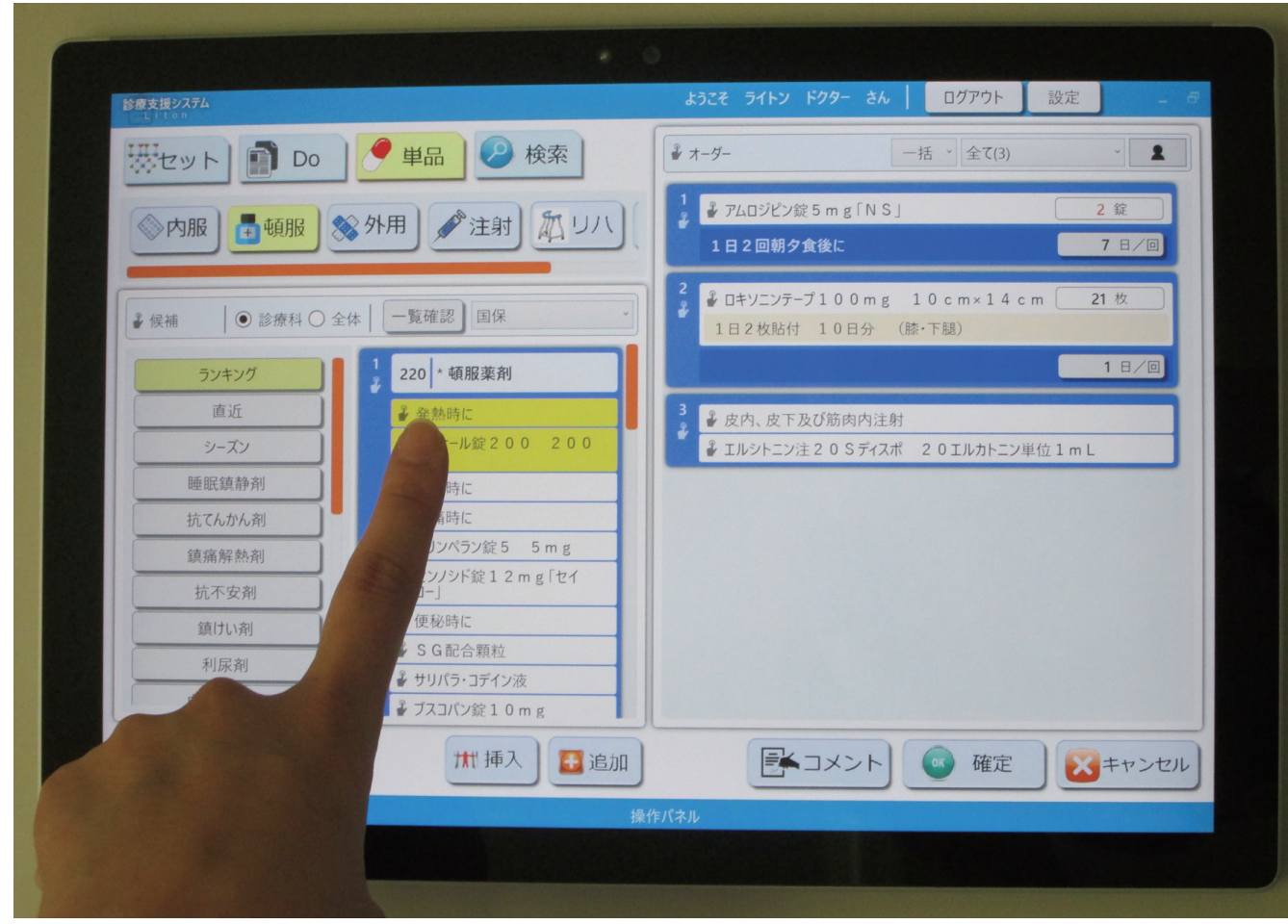


# 紙カルテ支援ツール Liton (ライトン)

RADIANCEWARE ラジエンスウェア 株式会社

## 患者や地域に還元される医療ビッグデータの整備を目指す



### 開発背景

ラジエンスウェアは、画面をタップするだけで、処方薬や処置の指示を出す「オーダー」ができる「Liton」を2017年11月に代理店向けに販売を開始しました。

### 電子カルテ導入現場の現状

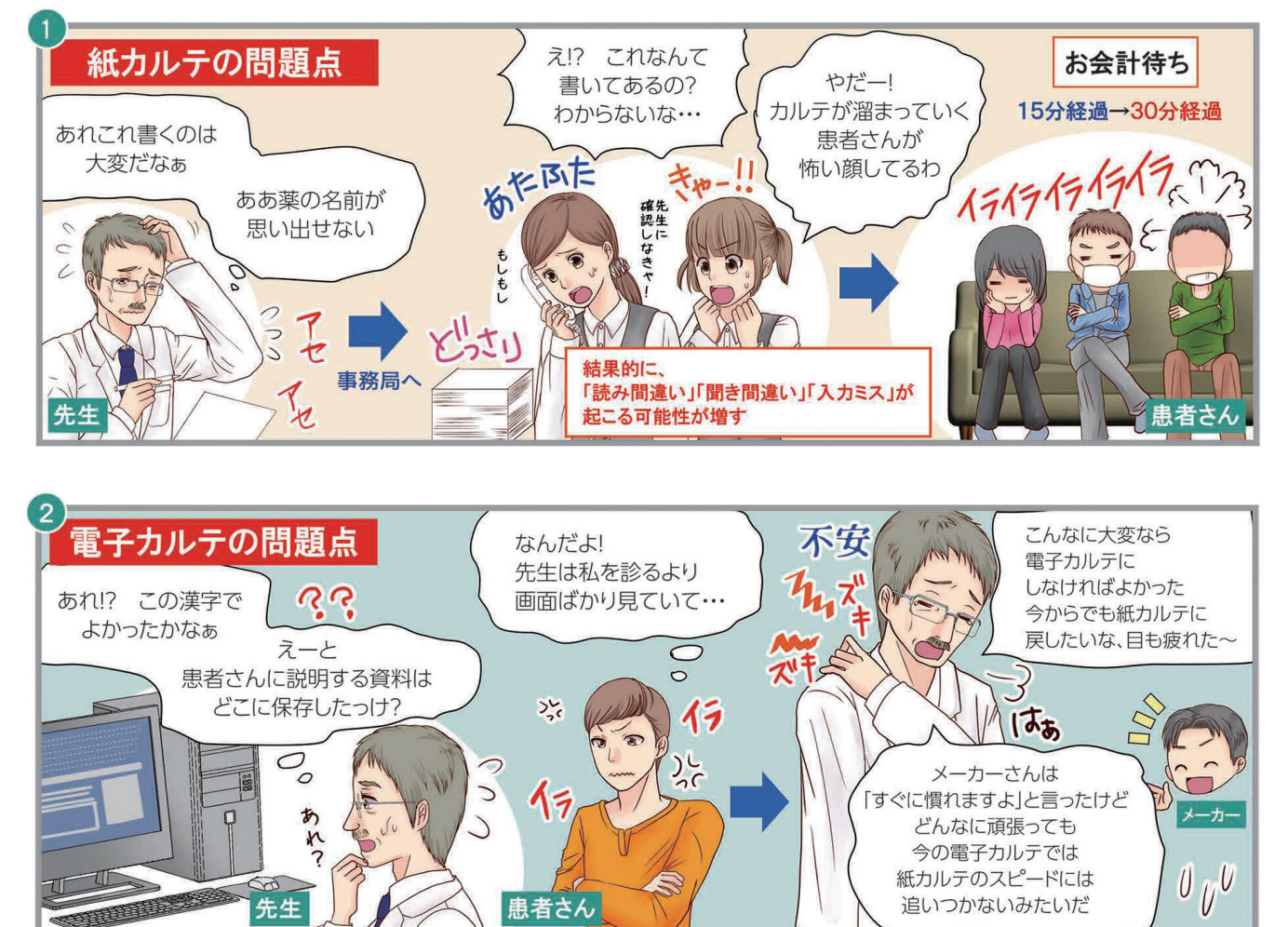
2015年、あるクリニックに電子カルテを導入した時のこと、医師が不慣れなせいもあったのですが、1日に診察する患者数を半分に減らさなければならない状況に追い込まれたクリニックがありました。患者を診察しながらキーボードを打ち、電子カルテに入力する作業に手間取り、一人あたりの診療時間が延びてしまったのです。紙カルテでは、片手でスラスラと記録を書いていたのに、電子カルテを導入したとたんにキーボード入力。両手が塞がり、画面の切り替え

名前の由来は、困っている医師や事務員に「ライト(灯)」を照らし、「ライト(手軽)」に「トントン」と入力できる製品の特徴から。「Liton」は、診察時の所見は手書きのまま、「受付情報」「オーダー」「検査データ」「AI情報」などを電子化したシステムです。紙カルテの運用で起こりがちな、転記ミスや時間がかかる不便さを、端末の画面をタップするだけの簡単操作に置き換えました。電子化した情報は大きな画面でわかりやすいことから、高齢の医師にも優しいシステムとなっています。

「Liton」は、よく使う薬剤情報をまとめたり、前回処方したものをワンタップでオーダーしたりが可能です。直近の処方内容や、季節的に出回る薬剤を表示するほか、ORCA(日医標準

レセプトソフトのことで、診療報酬を請求するシステム)からデータを取得して、処方薬のランキングを表示するなどのAI機能もあります。

400床以上の大きな病院はICT化が進む一方で、病院の規模が小さくなるほど、紙カルテが中心で電子化は一部に留まります。全国に10万件ある診療所で電子カルテが普及しているのは3割程度。同社はこうした開業医の目線で開発を行ないました。2016年にもものづくり補助金に採択され、一気に開発が加速。2018年から販売代理店と意見交換をしながら市場を開拓しています。



### 「Liton」とは

「Liton」は、手書きによるミスをなくすためにプロセスを電子化する診療支援システムとして医療スタッフの負担を軽減します。入力したデータはバックアップ機能によりEHR基盤に集積されるため、データの安全保存に加えて、地域連携や患者サービスに発展できる仕組みを備えています。

患者さんの同意を得れば他の医療機関で患者さんの病歴や投薬歴、検査結果が確認できる

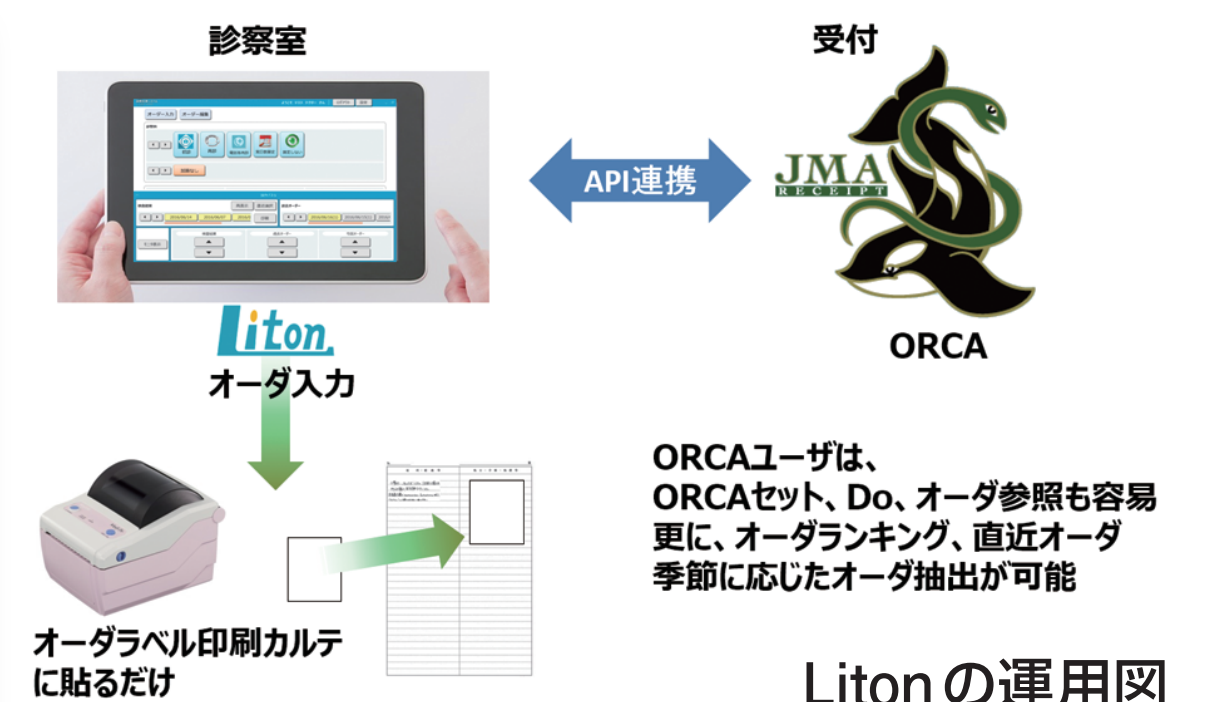
ことから、お薬手帳やカルテのコピーが不要になるなど正確・迅速な医療連携が可能となります。これは、まさに災害時対策に直結するもので、国民の命を守る必要不可欠な仕組みとも言えます。

国民一人ひとりの既往歴や治療結果など検診・医療情報の記録を一元的に集め、医療の質向上を目指す生涯健康医療電子記録、EHR (Electronic Health Record)基盤の構築が進んでいます。世界規模で医療ビッグデータを活用できれば、治療が困難な癌であっても個人

にあった最適な治療計画を検討することが可能になると言われています。日本は遅れを取りつつも、2015年には日本医療研究開発機構(AMED)の採択事業として日本版のEHR基盤構築を目的とするプロジェクトが始動しました。

医療現場の効率化を図りつつ、EHR基盤の発展にも一翼を担うLitonの開発背景を話す中嶋さんは、「力を発揮するのはこれからですよ」と締めくくる。同社は、患者一人ひとりに医療ビッグデータが活かされる未来に向かい奔走します。

### 医療現場の様子



Litonの運用図